

令和8年2月16日 臨時記者会見

あいさつ

- お集まりいただきありがとうございます。本日午前中市議会の全員協議会で新年度当初予算案について説明させていただきましたので、当初予算の概要について、記者の皆様にもお伝えさせていただき、記事にさせていただきたいと思っています。

- この度の私どもの予算案は、新発田市史上2番目という大きな予算を組ませていただきました。1番目は平成27年度に、本庁舎や新発田駅前複合施設の整備などの大きな事業を抱え、480億円を超える金額でありました。令和8年度は477億8千万円となり平成27年度に続く予算となります。

- しかしながら、2月補正で令和7年度に前倒して予算化している事業もあり、本丸中学校の長寿命化や松くい虫防除といった事業も含めると500億円に迫る超積極予算となりました。

- 物価高騰等で市民が大変困っておりますので、大いに元気になっていただきたい。明るい新発田を作りたい。という思いから大きな予算を組ませていただきました。また、現在取り組んでおります昨年12月と1月の臨時会での約17億円の物価高騰対策と令和8年度の当初度予算で切り目のない形で4月の新年度を迎えていきたいと考えております。

- 衆議院選挙が終わり大きな与党ができたようであります。選挙後の関心ごとは消費税の関係です。すべての政党が消費税に絡んだ公約を掲げておりましたので、今後市政を運営していくうえで、消費税が我々にどういった影響を与えるのか心配をしているところであります。

- それでは、予算案の全体概要から御説明申し上げます。

全体概要

- 資料の2ページを御覧ください。令和8年度の一般会計当初予算額は、477億8千万円、対前年度比で10億8千万円、率にして2.3パーセント増の超積極予算といたしました。

- そしてここに、国の補正予算に呼応して令和7年度に前倒して予算化した分を加えれば、当市過去最大であった平成27年度当初予算を上回る規模の超積極予算であります。
- 一方で、このような超積極予算においても、市の財政調整基金からの繰入れは2億円弱と、近年の平均額と比べ極めて少ない額としました。査定においては、市の裁量的経費に対するシーリングを設定するとともに、人件費の見直しなどにより経常経費の抑制をしっかりと行いました。また、ふるさと納税の収入増加に向けた取組など、財源の確保も図り、健全財政を引き続き堅持したところであります。
- 加えて、物価高騰対応経済対策として、昨年12月の定例会で予算化した約8億9千万円、また、先の1月臨時会で予算化した約8億7千万円による市民サービスも、今まさに展開しているところでありますので、これらの予算も併せまして、過去最大規模の新年度予算と一体として事業を進めてまいります。
- それでは、将来都市像「住みよいまち日本一 健康田園文化都市 しばた」を目指す、新年度の特徴的な取組を御紹介いたします。
- まずは、令和8年度当初予算におけるハイライトについてであります。

「子育てするならやっぱり新発田」の充実強化

- 資料の3ページを御覧ください。はじめに、「子育てするならやっぱり新発田」の充実強化についてです。
- 当市では人口減少対策として、「子育てするならやっぱり新発田」の旗印の下、1歳児以上の保育料の無償化など、当市独自の対策を国に先んじて取り組んでおります。それは、「子育ては親だけが担うものではない。子どもを育てることは未来の日本を支える人材を皆で育てることである。」という私の信念があるからです。

- 令和8年度は、この取組をさらに強化すべく、0，1，2歳児の通院費を10月から無料化することをはじめ、「こども誰でも通園制度」の本格実施、病児・病後児保育施設の広域利用事業の開始など、就学前の子育てに励む皆様の経済的負担や精神的負担の軽減を図ってまいります。
- また、就学後においても、安心・安全な子どもの居場所づくりとして、令和7年度末で閉園する御免町幼稚園の園舎を児童クラブに改修するとともに、増加傾向にある各児童クラブの利用者数に対応するため、支援員補助を増員し、受入れ体制を強化いたします。
- そして、小学校給食費の完全無償化についてであります。令和8年度から、小学校の給食費に対する国の支援が始まりますが、当市の給食単価は、国が定める上限額を超える状況であります。これは、豊かな自然と多様な農林水産物に恵まれている本市では、子どもたちの郷土愛の醸成や、「生きる力」にもつながる食育を進めることに加え、地域経済の活性化も図るために地場産品を給食に取り入れていることによります。
- 食材を安価で流通しているものへ変更することで、国が定める上限額へ近づけられるかもしれませんが、それは、本市が考える学校給食の在り方とは相容れないものであります。
- 「子育てするならやっぱり新発田」の旗印をこれまで以上に色濃く、鮮明なものとするために、その差額については保護者へ負担を求めることなく、市が全額を負担し、小学校給食費の完全無償化を実現いたします。

300周年を迎える「しばた台輪」勇壮なあおりを最高の舞台で！

- 資料の4ページを御覧ください。2つ目は、「新発田台輪運行300周年」であります。
- 令和8年は、新発田台輪の運行が始まってから300周年を迎えます。その新発田台輪も運行される、当市最大の集客イベントである城下町新発田まつりを広くPRするために、台輪運行300周年を冠とした、「出張！なんでも鑑定団 in 新発田市」を5月に開催いたします。

- 放送エリアである関東広域圏や、大阪、愛知、北海道といった大都市圏での7月のテレビ放送により機運を高め、新発田まつり本番では、「城下町新発田の誇り～次世代につなぐ300年の熱狂～」をコンセプトとして「特別台輪運行」などの記念事業を展開いたします。
- 勇壮なあおりを演じるための最高の舞台を準備し、台輪の長い歴史の節目を、市民の皆様と祝いながら、全国に向けてその魅力を発信いたします。

健康長寿

- 資料の5ページを御覧ください。次は、当市が目指す将来都市像の実現に向けて掲げる、4つのまちづくりの視点などに沿って、御説明いたします。
- 初めに、『健康長寿』についてです。

まちなか保健室事業、障害者地域生活支援事業、市民のきずなを深めいのちを守る事業（自殺対策事業）

- 健康長寿のまちを目指し、積極的な介護予防活動に取り組み続けた成果として、当市の介護認定率は、昨年9月末時点で16.4パーセントであり、全国平均の20.1パーセントや、県平均の19.1パーセントと比較しても良好な状況であります。
- 身体の機能が弱ってきた方が、お口から元気を取り戻せるよう「新発田市歯つらつ健口事業」による無料歯科健診の実施を介護予防事業の一環として実施するなど、口腔ケアに力を入れている当市の努力の結果であると自負しているところです。
- 年を取っても、あるいは障がいがあっても、その人がその人らしく暮らせるまちとなることが、健康寿命の延伸につながります。それは人口減少社会の進行を緩和させることにもなります。
- 令和8年度は、「出張まちなか保健室」と題して、健康経営企業等との連携により、減塩を中心とした食生活の改善など、働き世代に重点を置いた生活

習慣病予防にも取り組みます。

- さらに、認知症やひきこもりといった問題に対する支援の充実を図るとともに、悩みを抱える方のいのちを守る取組として、臨床心理士の配置による、相談の随時受付を実施いたします。

スポーツ&カルチャーツーリズム推進事業、大規模体育施設整備事業、カルチャーセンター大規模改修事業

- そして、健康長寿の一翼を担うスポーツでは、スポーツ合宿の誘致や、当市出身のプロバスケットボールプレーヤー富樫勇樹選手応援ツアーを展開するなど、誰もがスポーツを身近に感じ、気軽に参加できる環境をつくるとともに、皆様に快適な運動環境を提供いたします。

少子化対策①

母子保健活動事業、母子健康診査事業

- 資料の6ページを御覧ください。『少子化対策』についてです。先ほども申し上げたとおり、子どもの成長をまち全体で支えながら、市民や事業者の皆様、そして近隣市町村の皆様の力も借りて、取組を進めてまいります。
- 令和8年度は、先ほど御紹介の事業に加え、ニーズが高い「産後ケア事業」への予算拡充、5歳児健診の健診体制強化なども着実に進めてまいります。

少子化対策②

ひとり親支援事業、国民健康保険事業特別会計（うち、子ども均等割額の市独自減免）

- 資料の7ページを御覧ください。先ほど御説明しました児童クラブの環境充実に加え、ひとり親家庭の経済的自立を促すため、養育費に関する公正証書の作成等の費用への助成を新たに開始いたします。
- また、国民健康保険事業特別会計では、子ども均等割額の市独自減免について、国に先んじて対象年齢の引上げを行い、現在の未就学児までから、1

8歳までといたします。なお、対象年齢拡大に伴う減免額は、2千万円ほどを見込んでおります。

産業振興①

オーガニックSHIBATAプロジェクト、国営加治川用水地区参画事業、新発田市食料・農業振興協議会運営事業、有害鳥獣対策事業、雇用対策推進事業

- 資料の8ページを御覧ください。『産業振興』についてです。
- 農業の持続的発展に向け、当市が先駆けて取り組むオーガニックSHIBATAプロジェクトは、令和8年度が、国の交付金事業としての最終年度であります。これまで築き上げた新発田ブランドを国内外にしっかりと定着させながら、プロジェクトを次のステージへと進化させてまいります。
- また、農業基盤においては、国営事業として平成24年から進めてまいりました加治川用水農業水利事業が完了し、新発田市や近隣市町を含む6,000ヘクタール以上の水田への安定給水が実現します。
- これらのソフト・ハード両面での取組により、未来に向かって稼げる農業を育てながら、開催から20周年となる「食のアスパラ横丁、味めぐり」といったイベント等を通じて、当市の農業を明るく活気づけてまいります。
- 一方で、全国的に過去に例を見ないほど深刻な状況であるクマ出没への対応では、新発田市鳥獣被害対策実施隊の報酬増額による体制強化、緩衝帯整備の拡充、猟友会員をガバメントハンターとして雇用することなどにより、人身被害を防いでまいります。
- 次に仕事づくりについてです。労働力不足への対応として、隙間時間を活用して働きたい人と市内企業とをマッチングする「スポットワークサービス」を官民で構築することで、人材不足解消と生産性の向上を図ります。

産業振興②

創業支援事業、住宅リフォーム支援事業

- 資料の9ページを御覧ください。市街地における創業支援では、産業の空洞化対策を目的として、創業に対する助成を行っておりますが、令和8年度からは、その重点対象区域を拡大し、新規創業の機会拡大を図ります。
- 「住宅リフォーム支援」では、従来のメニューよりも補助率を引き上げた「防災住宅リフォーム枠」を新設し、雪下ろし命綱固定アンカー設置等の防災関連工事に対する支援を拡充いたします。

誘客促進事業、DMO活動推進事業、蔵春閣利活用事業

- 次に、観光振興についてです。先ほど申しあげました新発田台輪300周年イベントに加え、観光誘客の要であるインバウンドとスタディーツーリズムにおいては、トップセールスを最大の武器としながら、米どころや地域資源を生かしたコンテンツづくりを行い、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、DMO活動の強化による持続可能な観光地域づくりを推し進めます。
- また、蔵春閣では、新機軸として、喜八郎に関するデジタルアーカイブ化を進め、その成果としてアニメーション制作を行うほか、引き続き、市街地のランドマークとして、月岡温泉との相互送客を行いながら、滞在型観光の推進と観光消費額の増加に取り組んでまいります。

教育の充実①

小・中学校ICT教育推進事業、地域クラブ活動推進事業

- 資料の10ページを御覧ください。『教育の充実』についてです。
- 令和8年度は、先ほど申しあげました、小学校給食費の完全無償化を実現させるとともに、児童・生徒のタブレット端末の一斉更新によるICT環境の充実、休日における中学校部活動の地域クラブ活動への完全移行など、社会の変化や現場のニーズに即応したきめ細かな対応を進めてまいります。

教育の充実②

中学校施設整備事業、地域おこし協力隊設置事業（アートの広場プロジェクト）

- 資料の11ページを御覧ください。
- 教育環境の充実では、バリアフリー化を推進するため、東中学校へのエレベーター棟を増築するとともに、教育支援センター車野校に「アートの広場」を設置し、若手アーティストの育成と、不登校支援の充実につなげます。

その他①【選ばれるまちを目指して】

シティプロモーション推進事業、移住促進事業、奨学金返還支援事業、地場産品創出支援事業

- 資料の12ページを御覧ください。当市のまちづくりの4つの視点以外の主な事業を説明いたします。
- 「住み続けたい」、あるいは「住んでみたい」、「応援したい」まちであるためには、「選ばれるまち」に向けた戦略的なプロモーションが欠かせません。令和8年度は新たにシティプロモーション室を設置し、関係部署を有機的に結び付けながら、全庁を挙げてまちのプロモーションを展開します。
- そして、外部の地域力創造アドバイザーを活用したPR活動、移住ポータルサイトの構築、奨学金返還支援事業の要件緩和等により、移住、定住、関係人口の拡大を図ります。
- 併せて、地場産品の創出や生産強化に取り組む返礼品提供事業者に対し、事業者自身が集めたふるさと納税寄附金を原資として補助金を交付する、いわゆる「ふるさと納税3.0」制度を県内で初めて創設いたします。

その他②【安全安心なまちの基盤整備】【脱炭素社会の推進を加速化】

橋りょう修繕事業、防災対策推進事業、脱炭素社会推進事業

- 資料の13ページを御覧ください。まちの基盤整備においては、老朽化した橋りょう修繕の加速化、新発田市ハザードマップの更新と冊子の全戸配布、耐用年限を迎える防災行政無線に替わる「公共安全モバイルシステム」の導入などを進め、皆様の安全・安心を確保し、「災害に強いまち」を実現します。

- そして、脱炭素社会の推進では、既に取り組んでいる公共施設の照明設備LED化を継続することに加え、国の「重点対策加速化事業」を活用した、市民や民間事業者が導入する太陽光発電設備などへの助成を開始することで、まちぐるみのアクションに昇華させます。

その他③【DX活用等による行政事務の機能強化】

e L T A X活用収納事業、Web口座振替受付サービス事業

- 資料の14ページを御覧ください。DXの活用等においては、マイナンバーカードを活用し、窓口手続を簡素化する、いわゆる「書かない窓口」の本格運用がスタートいたします。これに併せ、地方税ポータルシステム「e L T A X」での、税以外の公金納付の開始、口座振替手続の電子化などにより、市民サービスの向上と業務の効率化を図ってまいります。

最後に

- 最後になりますが、私の果たすべき務めは、懸命に今を生き抜こうとする皆様の希望の明かりとなり、誰一人として取り残すことなく、目指す将来都市像である「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」へ、皆様を導いていくことでもあります。
- 令和8年度は私の市長任期4期目の締めくくりの年であります。皆様の明かりとなるこの予算を携え、まちづくりの手を緩めることなく、しっかりと仕上げてまいります。
- そして来年、令和9年は、昭和22年の新発田市市制施行から80周年を迎える年であります。市民の皆様が胸を張って、明るく市制80周年を迎えられるよう、私が先頭に立って、まちづくりに邁進いたします。